

がんばろう
南三陸町
復興第9号

南三陸マイタウン月刊情報

発行所
マイタウン企画
本吉郡南三陸町志津川字沼田 150-84
TEL (46) 3069
後援:
志津川広報センター



「泥かぶら」歌津公演

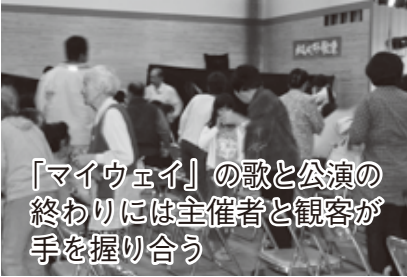
7月2日南三陸町復興応援公演として、「泥かぶら」が歌津中学校で開催された。開催は劇団新制作座の主催で、前歌津中阿部校長の働きかけにより実現し、協力には南三陸町復興推進ネットワークという若者たちの団体がネットによる開催告知支援を行った。

「泥かぶら」と呼ばれている荒々しいみにくい少女が、通りかかった老法師に「きれいになりたい」と話し、美しくなる方法を教わった。

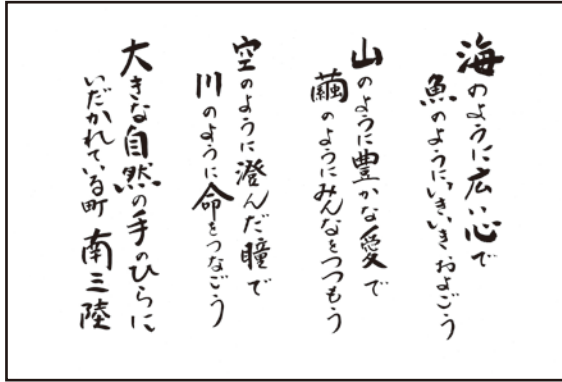
自分の顔を恥じないこと、
どんな時にもにっこり笑うこと、
人の身になって思うこと、

この3つを守れば村一番の美しい人になれるという。その教えを一生懸命守り少しずつ変わっていく「泥かぶら」。気持ちの優しくなっていく泥かぶらに、友達や村人そして悪人までもが心を開いていく様子に、会場にも多くの観客の皆さんが涙ぐむ姿があった。

泥かぶら役の小津さんは、観客の少ない事を「私たちの準備不足」と、開催に尽力された方を感じ、これが被災地への全国からの暖かい支援の「気づかい」と同じと感じた。遠く「八王子」の地から皆さんの早い復旧復興を願い、また皆さんに会いに来ますと、



「マイウェイ」の歌と公演の
終わりには主催者と観客が
手を握り合う



最後まで被災地の皆さんを思う言葉に頭がさがった。カーテンコールのあとはステージから降りて、観客の皆さんと手を握り合い、「ありがとう」「頑張ってください」と、一体となったふれあいがあり、泥かぶらの公演の開催が被災地「南三陸町」の皆さんに「一人じゃない」と、主催者が伝えたいことのように感じた。



被災者と「ふれあいのつどい」

インドから笹々井師が祈りを捧げる

6月27日(水)にホテル観洋で、僧侶佐々井秀嶺師の「ふれあいのつどい」が開催された。2時からの講演・3時から懇談会が行なわれ、参加は無料で開催された。

会場には関係者を含め100人余りが集まり、子供たちも一緒に家族連れも来場し、被災から1年3カ月が経っても、この津波の悪夢から抜け出せない心情を、佐々井師が聞く側に立った「ふれあいのつどい」となった。

も行いたい。

◆千葉伸孝氏

①志津川市街地の商工用地は買い上げにならないのか。換地後の土地は融資担保として活用できるか ②高台移転には多くの資金が必要。町独自の支援策は。

町長 ①区画整理事業区域内の商工用地は換地によって位置、面積は変わるが、等価交換として評価されるので従前地と同様に融資担保となることは可能。区域内で公共施設整備のために用地買収できる緊急防災空地整備事業で、商工用地も予算の範囲内で買い取りを予定しているが、買い取り後は町有地になるので融資担保の対象外になる。折念公園は宅地、商工用地問わず買い取る。②建設資金に対する独自支援はない。推計による住宅再建希望者2000人と町財政状況を考慮した場合、一律に一定額を支給することはできない。義援金は残額が5000万円ほどあるので再度分配する。

※一般質問は順不同です。続きは次回掲載します。

南三陸町ブランド菊
お盆供花販売支援
予約受付中!

(特別アレンジ供花.1束550円)

スイカも 予約締め切り 8月4日(土)
(受け取り 8月11日(土)9:00~)
受け付けます。 問合せ先 46-8690 (千葉まで)

「佐々井秀嶺師」は岡山県出身で、インドの国籍を取得し、インド中央政府の仏教徒代表で、現在はインド仏教徒の1億5千万人の指導者でもある。



熱く語りかける

「煩惱なくして生命なし。必ず生きる・・・必生(ひっせい)。この大欲こそが、大樂金剛です。すなわち、煩惱は生きる力なのです」と言う。

今回の佐々井師の来町には、同行された横浜の少林寺と戸倉慈眼寺の方丈様とのご縁があった。

佐々井さんが来町して第一番目に戸倉の慈眼寺さんへおもむき、流失したお寺の裏山の黒光りする墓地の柱を見て驚いたと話す。この大災からも墓地は守られたと、佐々井師は感じ取ったのでしょうか。奉仕作業をしていた檀家の皆さんとともに、カマを握り一緒に佐々井さんは清掃活動をし、仮設の寺社で説法を皆さんに行いました。その後で防災センターの赤さびた三階建の鉄骨の場所に跪き、地面に頭を何回もこすりつけながらお経を唱えた。



H23.6 被災地供養行脚

同行された横浜の少林寺の赤間さんは、導師と共に昨年6月にも南三陸町を訪れ「被災地供養行脚」をしている。また、横浜からバスツアーを企画したり、バザー募金を開催し、遠く横浜の地から南三陸町への支援をしている。

平成24年度
南三陸町体育協会総会

7月11日総合体育館会議室にて、町体育協会の総会が16団体の関係者が集まり開催された。

昨年は「東日本大震災」により総会の開催は見送られ、平成23年度の事業報告では、会議・主体事業などが、欠席や中止となった。そんな中で23年度事業に24年2月9日「町小学生ジュニアフットサル大会」が志小で開催され6チームが参加した。町スポーツ少年団も被災半年後から、小規模ながら活動がスタートしたと事務局より報告がなされた。



被災間もないアリーナ総合体育館

総会に先立ち、平成24年度町体育協会表彰式があり、「体育功労章」として、歌津グランドゴルフ協会より小野昇一さんと、柔道協会より本田剛彦さんと阿部志津雄さんが表彰された。佐藤教育長の祝辞の及川課長代読では、「昨年の11月のビニールバレーの開催で、子供たちの笑顔と歓声が体育館にひびき、大会が開催されて良かった」と話し、スポーツの団結力が復興への力となり、今後の活力に協力支援をと、体育協会の発展を願った。

今回の震災で協会役員が2名亡くなり、「黙祷」を全員で行い、新たな役員を選任を行った。会長は高橋長泰さんが再任され、副会長には三浦洋昭さん(バレー協)が、新理事長には山内一夫さん(志バス協)が就任した。

6月定例議会① 5議員が質問

◆大瀧りう子氏

①災害公営住宅の町独自の低減措置の考えはないか ②公営住宅の居住面積を広くする考えは ③太陽光発電システムに助成を

町長 ①最大1000戸の総事業費227億円のうち、町が負担する29億円は家賃収入で償還していくため、一定の家賃収入は必要。政令月収8万円以上の世帯に対し、20%ぐらいの低減を考えている。②災害公営住宅は現在の仮設住宅より、1.8倍広がる。間取りは柔軟に検討するが、町民の方々の意見を踏まえ、広さよりも使い勝手を良くしたいと考えている。③国、県の補助制度と合わせて町の制度創設を検討。各市町村の情報を収集し、年度内に制度を創設したい。

◆高橋兼次氏

①防潮堤が景観を損ねるとい声が出ているが、町長の考えは ②震災復興折念公園整備、モニュメントの考え方は ③高台個別移転者への町独自支援を

町長 ①レベル1の津波に対応する防潮堤なので理解を。また議論を戻すと、まったく計画が進まなくなる。②折念公園、慰霊碑などの整備を計画している。志津川地区に折念公園、歌津、戸倉、入谷各地区に希望、鎮魂の丘を整備する。防災対策庁舎は公共施設解体スケジュールの中で進める ③町独自の定住対策として町内で個別移転する人で、がけ地近接等危険住宅移転促進事業の対象とならない方に対して同等の助成をしたい。上水道管敷設の助成や、合併浄化槽設置のかさ上げ助成